

夢を語る職員集団に

港エリア  
総括施設長 角森 佐岐子

この度、港エリア総括施設長を拝命いたしました。エリア総括施設長は今年度新たに設けられた役職ですが、エリア内の事業を総括的に管理し、より効果的かつ効率的に運営することが求められていると理解しております。



港エリアには、生活介護・就労移行・就労継続B型・相談支援・就労支援・グループホームと多くの事業があります。また、昨年度末で地域生活支援センターがその役割を終えましたが、その後を引き継ぐべく新たな形態でのサービス提供を目指して準備中でもあります。平成9年、支援センター開設時のスタッフである私が、新たなスタートを切るこの時に再びこのような役割を担わせていただけるのも不思議な巡り合わせだと感じております。

港エリアは早くから事業展開を図り、特に就労・生活の支援では全国からの注目を集めた時期がありました。全国から多くの支援者が集まり勉強会が開かれ、各地の先駆的な取り組みを学ぶ機会が与えられた事は今の私の仕事の大きな糧となっています。時が過ぎ、時代は移り変わり施設に求められるものは大きく変わってきましたが、先駆的な取り組みをされていた先達は今の時代を予測していたように、その考え方は今でも輝きを放っています。ところが、

港エリアの活動もその延長線上にあるはずなのに、少々輝きが鈍ってしまったように感じる時があります。ともすればマンネリズムに陥りがちな職員の思考に新たな風を吹き込み、うっすらたまった埃を『誇り』に変えられるそんな職場を目指して頑張りたいと思います。

職員一人ひとりが法人の理念をしっかりと心に刻み、経験からの職人技ではなく理論に基づいた分析力を身につける事はもちろんですが、日々の仕事に心身をすり減らすことなく、夢を語りあえる集団になって欲しいと願っています。そして、私自身にはその夢を実現させる方法を見つけ出すという重い役割が課せられています。想像するだけで押しつぶされそうな重圧を感じながらも、どこかワクワクと明るい気持ちが芽

生えています。

これからも、港エリアの事業所は、支援を求めるお一人おひとりの人権、価値観、自立心を尊重し、その方の人生がより豊かになるようサービスの向上に努めてまいります。今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「親亡き後」から「当事者本位」「本人主体」へ

港育成園  
管理者 杉本 伸一

4月1日から港育成園で勤務させていただいております。



昭和62年5月に東成育成園が開所された時から当法人に奉職させていただき、港育成園は平成7年以来18年ぶりですが、その間には港第二育成園、ワークスいけじま、大阪市地域生活支援センターでの勤務があり、エリアとしては1年ぶりとなります。

管理者として大任を担うため緊張で一杯のスタートです。

港育成園を離れていた間に福祉の流れも大きく変わりました。措置から支援費そして自立支援法、今は障がい者総合支援法になり、私の考え方もずいぶん変わりました。

ワークスいけじまが開所した平成9年、ワークスいけじまは40歳以上の方を中心に支援させていただいてこともあり、保護者の方もご高齢の方が多く、保護者会では私の死んだあとこの子はどうなるのかとよく話題が出て、「親亡き後」を考えさせられました。言葉を変えると、ご自分(親)が死んだあとどのように生きていくのか?その暮らしはご本人にとって幸せなのか不幸せなのか分からないから不安だということではないでしょうか。

そこには保護者様ご自身が安心できる何かが必要だったのかもしれませんが。当時の私は無力で、ただ保護者様のお話を聞き共感し自分の知りえる情報を共有するだけでした。

しかし、その時に港第二育成園の保護者会が中心でワークスユニオンという組織が立ち上げられ、作業所も作られ、作られた思いの中には「親亡き後」があったものと存じています。

その頃の私には今の考えである、「当事者本位」や